

教皇選挙

2025.5.2

前号で教皇選挙、コンクラーベのことを書いたら、ある映画のことを思い出した。トム・ハンクス演じるラングドン教授が活躍する『天使と悪魔』である。コンクラーベを舞台にしたサスペンススリラーである。

コンクラーベは、14億人のカトリック信者のトップである次の教皇を選ぶ選挙である。世界の人口が82億人になると、世界人口の約2割を占める人たちのトップという立場になる。当然、世界情勢にも影響を与えるだろう。コンクラーベはラテン語である。「コン」が「～と一緒に」、「クラーベ」が「鍵」という意味である。つまり、「鍵とともに」「鍵をかけて」という意味になる。

13世紀に教皇が3年間も選ばれない異常事態に陥ったことがあった。そこで、鍵をかけた部屋に大司教や位の高い聖職者である枢機卿らを閉じ込めて決めさせたことが由来となっている。どこで選挙をするのか。世界的に有名なバチカンのシスティーナ礼拝堂である。普段は、バチカン美術館として一般公開されている。ミケランジェロのフレスコ画がある。天井画の「天地創造」や壁画の「最後の審判」は、西洋美術の最高傑作とされている。実際に見たことがある。ミケランジェロの作品に圧倒された。その才能と絵画技術、芸術家として気迫が我が身に降りかかってきた。実に莊厳な空間である。同時にここがコンクラーベの会場なのか。ここで教皇を選ぶのかと感慨ひとしおだった。

選挙は、投票総数の3分の2を獲得するまで何度も行われる。完全非公開の選挙の結果は、煙の色で知らされる。情報が漏れないように、投票を1回やるごとに投票用紙を燃やす。そのときの煙の色で外部に結果が知らされる。決まらなければ黒、決まった場合は白である。同時に鐘も鳴らされる。

第266代ローマ教皇であったフランシスコ教皇は、史上初の南米出身の教皇だった。ヨーロッパ以外の出身者が教皇に選ばれるのは約1300年ぶりのことだった。ちょうどこのタイミングで、コンクラーベの舞台裏を描いたミステリー映画『教皇選挙』が全国で公開となっている。この3月には、アカデミー賞の脚色賞を受賞している。

こここのところ、世界史の勉強をしている。度々ローマ教皇が登場てくる。歴史の舞台には、欠かすことができない人物の一人である。コンクラーベを経て新しい教皇が決まった暁には、すぐにサン・ピエトロ大聖堂のバルコニーに姿を見せ、世界に向けてメッセージを送ってくれることだろう。ローマ教皇には、バルコニーがよく似合う。